



生活やものづくりの学びNetニュース

巻頭言

新型コロナ感染拡大と家庭科における調理実習の課題

全国家庭科教育協会 会長 河野公子

新型コロナウイルス感染拡大により、昨年3月初めの全国一斉の臨時休校の後、新学期早々の緊急事態宣言、その後の一部地域での断続的な感染拡大のため、各学校においては、様々な工夫をして家庭科の授業が進められております。

特に、家庭科の中でも感染の可能性が高いと想定される調理実習については、2020年3月26日には文部科学省から、「家庭科において、調理などの実習について、年間指導計画の中で指導の順序を変更することや、衛生管理をより一層徹底すること」が発出されました。同年5月13日にも、「感染症対策をしてもなお感染の可能性が高い学習活動については、当分の間、これを行わないよう」として「家庭科、技術・家庭科における調理等の実習」が示されました。さらに、同年6月5日には、「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について（通知）」が発出され、小学校家庭科及び中学校技術・家庭（家庭分野）のいずれについても、「製作、調理等の実習の指導において、実習室の用具や機器、設備などを使用しなければ学習内容の理解や技能の習得を図ることが困難な学習活動については、学校の授業で取り扱うことが望ましい。」とされましたので、調理実習ができない状況となりました。

全国家庭科教育協会では、2020年7月に「コロナ禍での家庭科教育の現状」を把握することを目的に調査を実施しました。会員約900余名中136名から回答があり、今後の課題120件中52件が「調理実習」に関するものでした。「実施困難、実施方法や教材研究が課題」が30件と最も多く、次に「感染防止、消毒や衛生面の配慮、安全基準に関する不安」が13件でした。工夫して2分割の調理実習を行った方6人からは、「持ち時数増」「進度の遅れ」「調理器具や実習室などの施設・設備不足」などの課題が挙げられました。

家庭科における調理実習はどうあったらいいのでしょうか。「家庭科の調理実習で学ぶ大切なこと」（日本家政学会誌67巻「研究の動向14」埼玉大学河村美穂氏）によると、家庭科の調理実習では、調理の手続きを学ぶことと、調理の科学的認識を育てることが重要であり、「やってみてわかる」体感的、感性的認識や、グループによる学び合いも重要なことです。

コロナ禍での経験を生かして、調理実習が密にならず学習効果のある少人数指導について検証するとともに、今後の家庭科の食に関する指導、特に調理実習の在り方について検討する必要があるのではと痛感しています。

Contents

巻頭言	1
報告 「生活やものづくりの学びネットワーク 春の学習交流会」 報告	2
2020年度各地区の活動報告	3~5
生活やものづくりの学びネットワーク 第12回(2021年)総会資料	6~9
事務局からのお知らせ	10
総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧	11
「2021年度公開シンポジウム」のご案内	12

報告

生活やものづくりの学びネットワーク 春の学習交流会2021 コロナ禍における実験実習の工夫

2021年3月27日(土)10:00~12:30、「春の学習交流会2021」が開催された。昨年9月の公開フォーラムに引き続きZOOMによるリモート開催となり、54名(内会員53名)が参加した。テーマは「コロナ下における実習・実験の工夫」である。山梨大学大学院志村結美氏(世話人)の司会の下、講師に法政大学中学高等学校の榎府暢子氏ならびに筑波大学附属中学校の小林美礼氏をお迎えして、講義とワークショップが行われた。

今回の企画は、公開フォーラムの際に多くの参加者から寄せられた要望に基づいて計画されたものである。まず講師に実践をご報告いただき、質疑応答の後グループ協議を行って、その成果を共有した後に、講師から講評をいただいた。

【講演の概要】

榎府氏は、自宅学習期間は学校ではできないことを中心に、生徒が楽しく取り組める課題を出しておられ(タオルと目覚まし時計を用いた騒音の学習や、備蓄品調べ、地域に目を向けた危険箇所・避難場所調べなど)、学びの目的を明確にした取り組みやすい出題が強く印象に残った。解除後の調理実習における「個別作業、食べない、調理しない」などは、参加者には大いに参考になった。

小林氏の勤務校では、休校が決まってから2カ月かけて生徒の学びを保障するための検討がなされ、その結果、様々なツールを活用した充実した授業が実施されている。家庭科については、家事体験、ステイホームレポートなど、自宅で過ごすことを最大限生かした課題が出され、そのための基盤として生徒のプライバシーへの配慮や情報リテラシーの指導も十分行われている。PCを通じての課題のやりとりだけではなくZOOMによる質問タイ

ムも設定されるなど充実した内容に、参加者からは感嘆の声が上がった。



(小林氏ご発表資料より)

【情報交換会と講評】

参加者は7つのグループに分かれ、世話人の進行の下、講演の感想や自校での実習の取り組み・悩みなどについて意見交換を行った。講師に対して追加の質問も出されるなど、内容の濃い充実した研修会となり、時間が足りないほどだった。

講師からは、コロナ禍というこれまでに経験したことのない事態ではあったが、家庭科だからこそといえる取り組みもでき、改めて家庭科の良さを実感できたことや、このような事態であっても、学びの質が低下しないように、主体的・対話的な深い学びを目指すことの大切さが説かれた。

【参加者の感想から】(一部抜粋)

- ・ハイブリッドという言葉が印象に残りました。
- ・おしゃべりだけが対話ではない、共感します。学び合う場を作ることを心掛けたいと思います。
- ・お二方とも今できる最大限の授業作りにご尽力されていて大変参考になりました。
- ・「コロナ禍で大人も含めて家での過ごし方を考えている今が家庭科のチャンス」という最後の言葉が印象に残りました。

(文責・仲田郁子)

実習実践例

- ◆パン作り……一人分ずつの材料をビニール袋に入れ、各自でこね、発酵させる。
バターロール、ソーセージロール、ピザなどに成型して焼く。

- ◆即席漬物……ポリ袋に切った野菜、塩昆布などを入れもむ。
⇒浸漬匠の実験、調理技術テスト

- ◆ポリ袋調理(災害食)……食材を入れたポリ袋(高密度ポリエチレン)をたっぷりの湯の中に入れ、調理する。

例) コップ1杯の水と米 ⇒袋のままおにぎりにして、持ち帰らせる
焼き鳥缶と溶き卵⇒器に米を入れ、上からかけて親子丼にする
ホットケーキミックスと水⇒蒸しパン



(榎府氏ご発表資料より)

2020 年度各地区の活動報告

1. 山形県の活動報告

日時：2021年3月20日（土）10：00～12：00
オンライン開催

研修内容：学校教育の場での性的マイノリティへの対応の現状と課題

1. 講演 「LGBT から SOGI へ」

講師 池田弘乃氏

(山形大学人文社会科学部 准教授)

2. 「学校教育の場での性的マイノリティへの対応の現状と課題」についてディスカッション

今年度は、新型コロナウイルス対応のために、本ネットワークの研修会もオンライン開催としました。県外の方4名を含む16名の参加を得て充実した研修となりました。参加者は、家庭科教育関係者の他に、「人間と性」教育研究協議会山形サークルの会員（養護教諭・医師・助産師）や男女共同参画に関心ある方、弁護士など多様な職種の方々です。ご参加いただきました皆様に御礼申し上げます。

研修会は、まず、法哲学、フェミニズム法理論研究がご専門の池田弘乃氏を講師に迎え、セクシャルマイノリティに関する基礎的事項と学校教育における課題についてご講演いただきました。後半は事前に参加者から頂戴した質問事項に池田先生から回答いただき、その後は参加者の皆さまと意見交換を行いました。

【参加者の感想紹介】

次第

- 1) 分類・区別・差別
 - 2) 性の様々な側面
 - 3) SOGI に関するマジョリティとマイノリティ
 - 4) LGBT という言葉
 - 5) 性の多様性と学校という空間
 - 6) 法制度上の差別
- 補足) 山形での取り組み

要旨

- 1) 「答え」ではなく「問い」を共有する社会へ：すべての人が「個人として尊重」される社会とはどのようなものか？
- 2) 人が「シスジェンダーで異性愛」であると勝手に前提としないことの大事さ（「性」を含めた様々な場面での人の多様性についてしっていくこと）
- 3) 「多様な性」の話は男女平等の話とつながっていること（どちらの話も学校空間の前提の問い直しにつながる）

・池田先生のお話で、LGBT の割合の統計資料のご

紹介がありました。日本での信頼できる資料の所在が分からず困っておりましたので、とても参考になりました。

・トイレの話がありました。お茶の水女子大、早稲田大はじめ各大学で多目的トイレの設置が進んでいますが、中高でも、とりあえず来賓用トイレを使わせるときには、ただ使わせるのは生徒間のアウトティングになりかねないので、「多目的トイレ」「だれでもトイレ」など名称自体を変えて掲示することが大切だと思います。

・研修会参加目的である、セクシャルマイノリティに関する正しい知識を得るという目的が達成された。また、参加者の質問や意見を通し、現場の状況も知る事ができた。

・池田先生の大変わかりやすいご説明と、先生方からの現場の実情やそれぞれの工夫がお聞きできて大変よかったです。

・当事者に気づく方法として、「基本的知識を持つこと」「具体的な困りごとについて知ること」をお聞きし、今後アライとして活動する手がかりを持てたことがよかったです。

・LGBT/SOGI についてよく整理できました。自分の中にある勝手な前提・無意識について、自戒しなくてはと強く思いました。大学での授業（教員養成課程）に活かしたいと思っております。

・今日の講演を伺いながら、性の多様性と男女平等という課題との連続性について、改めて考えさせられました。また、多様な性と同様に、例えば夫婦別姓も、結婚すれば婚姻届を提出し、夫婦同姓にするのが当たり前だと思っている人やこれらを前提にした社会では、夫婦別姓や法律婚にとられない結婚のことを意識しない（意識する必要に迫られない）ことが多いと思いました。

・男女2分法を問い直し「男女別」の発想をやめること等、これまで「当たり前」のこととして考えてこなかったことを改めて問い直す機会となりました。ありがとうございました。

・討論の時間が足りなくて残念であったが、授業の中で生徒と共に考えていきたい。

・若手の高校の養護教諭と、LGBTQの授業づくりをしていて、参考にしようと参加しました。語源や、言葉の細かな意味などを正確に捉えていて、改めて自分の考え方

を点検することもできました。慣れた感覚は、そういう意味では絶えず確認が必要だなと思いました。お聞きした内容をさらに、例えば小学生や中学生にどう伝えるか、ということになると、また新たな課題ができてしまったかも・・・と思います。いずれにしても子どもたちの所にこの情報が届かなければ意味はないと思うので、性教協の活動などを通して、どうやって広げていくかを考えていきます。

(文責 石垣和恵)

2. 長野県の活動報告

2021年3月14日(日)10時～13時まで、信州大学教育学部被服実習室およびリモートで令和2年度の学習交流会を開催した。参加者は高校教員4名、中学校教員2名、対面2名、遠隔4名、男性2名、女性4名、会員3名、非会員3名であった。

前半で、マスク製作をテーマにした「大学生の課題研究の実践報告」と「古着アップサイクルで作るPC周辺グッズの製作実習用の教材化に関する報告」を福田が行った。後半は、各自で持ち寄った古着や使用済み教材や使用済み副資材等(図1～図3)を利活用したPC袋の試作検討を行った。製作途中であったが、最後にPC袋の発表を行い、さらに古着アップサイクルの事例や教材化に向けた意見交換を行った。

参加した教員より「略・・・我々の提示する教材も常に時代に合わせて変化していることにワクワクします。略・・・3Rの観点が重要視されているようなので、教材研究を進めていきたいと思いました。」「マスクのように人間生活に必要なものが、突然なくなったり不足したりする際に自らの手で作り出せる力は非常に重要です」「生活に必要なものが増えている。(変化する)」「小中と異なり高校では、古着などの素材を学校に持って来させることが大変なんです。」「今回のように機会がありやってみないことにはいろいろ明確に見えてこないことも多く、特に実習においては、研修の機会をいただけましたことに感謝申し上げます。今後ともタイムリーな話題、少し先行く情報等よろしく願いいたします。」といった感想が述べられた。

長野県も非常に広く(県境だと大学まで車で往復6時間)、年度末の忙しい時期であっても、出入りも自由で、遠隔であれば負担少なく参加でき、非常に有効であった。しかしながら、対面と遠隔のハイブリ

ッド(図3)を試みたが、この点に関しては、非常に難しく、遠隔を中心に資料提示および音声共有を行い、会場の様子および作品の拡大提示を動画・音声送信することとなった。今後、ハイブリッドでの有効な開催方法に関して検討したい。遠隔開催では、非会員の参加費徴収方法に課題が残った。今年度も活動補助金をいただいたことに感謝申し上げます。

(文責:信州大学 福田典子)



図1 バックルを再利用



図2 古着を再利用

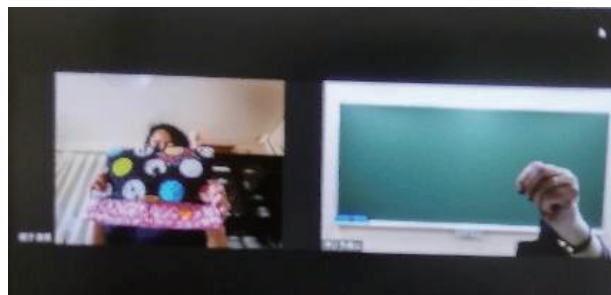


図3 対面と遠隔のハイブリッド風景
教材キルト地を再利用

3. 千葉県の活動報告

1. 日程 2021年3月24日(水)午後2時～午後4時
2. テーマ・内容
「簡単な実験で食べものをみてみよう」
食品と栄養をつなぐ簡単な実験を紹介し、授業への取り入れ方を話し合う
3. 講師 石井 克枝氏(千葉大学名誉教授)

生活やものづくりの学びネットワーク千葉では、第8回学習交流会を2021年3月24日(水)にZoomにて開催しました。

千葉県では、現場の授業に還元できるような内容をと毎年企画実施しております。昨年度は「指導者のための調理実習」というテーマで企画したものの、コロナ感染拡大の影響でやむなく中止となってしまいました。2020年度の授業はコロナ禍の中、特に調理実習は多くの学校でできていないか制約を受けて実施という状況でした。そこで、今年度は食領域に実験的なものを取り入れた授業のヒントになるものをと、石井克枝先生による「簡単な実験で食べものをみてみよう」をテーマとしました。千葉会員限定で、13名の参加を得ました。小学校・中学校・高等学校・大学の教員、大学教員 OGと学校種も多岐にわたりました。

<石井先生の講義内容>

○調理学習では、時代とともに生活経験が減ってきたことによる学生の変化が顕著であることを踏まえて、授業を考える必要があるというお話を皮切りに、食品と栄養素と結びつける簡単な実験をたくさん紹介、示範していただきました。

○調理実習の示範では、何を見せたいのか・どういうところを見てほしいのか明確にするには、言葉が必要であること。また、示範に学生を登場させるとよいとのこと。どこがわからないのかわかります。実際に鯛の手開きを見せていただき、実習のやり方のポイントを学びました。

○主体的な授業にするために、自分が興味のあることをレポートにしてみる、自分の疑問を解明する実験をとり入れた調理学実験など、学生が授業に積極的に参加するようになる実践例を提示していただきました。

○最後に自分自身の五感を通して食べものと向き合うことは、自分に向き合うことでもあり、自分がどう感じているか言葉にすることで自分自身を知ることや他人を認めることにつながる味覚教育についてもお話をいただきました。

<質疑・話し合い>

講義のあと、講義内容や食の授業について意見交換が行われました。参加の先生方の多くが「食品群の考え方や栄養をどのように教えたらいいか悩んでいる」ことが分かりました。石井先生から「食品群の分け方自体がファジイで食品をカチッと分けられるものでないこと、私たちは栄養だけで食べるのでない」、参加の中間美砂子先生からは「食品群はバランスよく食べるための仕分け方法で、どんな食べ方をしたらよいか大ざっぱでよいので、国民全体に普及することが必要。そのためには小中高の男女で学ぶ家庭科は大事です。」というアドバイスがありました。感想として「魚の手開きの調理実習をやってみようという気持ちになった。」「コロナ禍で何ができるかと悩んでいたが、ふきんを使って厚焼き玉子の練習や、メラミンスポンジを使って包丁の練習ができるなど、食品は扱わなくてもできることがあり参考になった。」など。さらに「印象に残ったキーワードの1つは、どの発達段階でも具体的に見せることは大事。実験や実習を通して具体的なものから抽象的概念を形成し応用する力がつく。2つ目は悩むことが大事。(例えば煮干しの栄養はたんぱく質? どうして無機質?) 悩むということは自分事として捉えるということでもあるから」と今日の学習会のまとめとなる感想もいただきました。活発に意見が言い合えて有意義な学習交流会でした。
(文責 小谷教子)



「生活やものづくりの学びネットワーク」第12回総会（2021年）資料

【報告事項】

I 2020年度活動報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

1. ネットワーク参加人員数

2021年3月31日現在 個人会員 346名 団体会員 18団体

2. 交流会の開催

公開フォーラム

日時：2020年9月27日（日）10:00～12:00

Zoomによる遠隔開催

テーマ：「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校—

話題提供者：

- ・有友愛子氏（お茶の水女子大学附属中学校）
- ・中嶋たや氏（奈良教育大学附属中学校）
- ・小山田祐太氏（麻布学園 麻布中学校・麻布高等学校）

コーディネーター

- ・小野由美子氏（東京家政学院大学）

春の学習交流会

日時：2021年3月27日（日）10:00～12:30

Zoomによる遠隔開催

テーマ：コロナ禍における実習・実験の工夫

話題提供者：

- ・榎府暢子氏（法政大学中学・高等学校）
- ・小林美礼氏（筑波大学附属中学校）

コーディネーター

- ・志村結美氏（山梨大学）



3. ロビー活動

2020年9月3日（木）付けで、世話人代表 赤塚朋子名にて「家庭科、技術・家庭科教育充実のための要望書」を前世話人副代表 河野公子氏を中心に、第10期中央教育審議会委員全員、文部科学省初等中等教育局長 丸山洋司氏をはじめ同教育課程課長 滝波泰氏、同主任学校教育官 大内克紀氏、同学校教育官 石田有記氏、同教育課程課総括係長 桑田美幸氏、国立教育政策研究所所長 中川健朗氏、教科調査官市毛祐子氏と丸山早苗氏へ、新しいパンフレットとともに郵送した。

4. 会員の交流および宣伝活動

- ①ニュース発行 第19号（2020年8月）、第20号（2021年2月）が発行された。
- ②生活やものづくりの学びネットワークの新版パンフレット（2019年4月発行）を要望のあった団体、組織等に配布した。
- ③コロナ禍で活動が制限された県（支部）が多かったなか、3県でzoomやハイブリッドで活動が行われた。
- ④メーリングリスト上での情報発信や意見交換が行われた。
- ⑤ホームページを適宜管理した。

5. 各会議の開催

(1) 総会

日時：2020年8月10日～8月31日

「生活やものづくりの学び Net ニュース」19号（2020年8月発行）の掲載をもって書面審議の結果、承認された。

内容 ・2019年度活動報告

- ・2019年度決算報告
- ・2020年度活動方針
- ・2020年度予算案
- ・2020年度運営体制

(2) 実行委員会

「生活やものづくりの学び Net ニュース」19号(2020年8月発行)の掲載をもって報告とした。

(3) 世話人会

- 第1回 2020年5月16日(土)~22日(金) メール会議
- 第2回 2020年7月19日(日) 13:00~14:35 zoom
- 第3回 2020年8月1日(月)~10日 メール会議
- 第4回 2020年8月30日(日) 10:00~12:00 zoom
- 第5回 2020年10月6日~10月12日 メール会議
- 第6回 2021年1月23日(土) 10:00~11:30 zoom

II 2020年度 決算報告 (2020.4.1~2021.3.31)

生活やものづくりの学びネットワーク 2020年度決算報告 (2020.4.1~2021.3.31)			
収入の部			(単位:円)
科目	予算	決算	備考
2019年度繰越金	599,512	599,512	
個人会員年会費	300,000	325,000	延べ325人(17年5件、18年17件、19年48件、20年194件、21年26件、22年以降35件)
団体会員年会費	120,000	140,000	1口5000円、なるべく2口以上、延べ17団体(2019年度2件、'20年度15件)
寄付	10,000	52,500	個人会員より7件 (500円×1, 1000円×3, 9000円×1, 10000円×1, 30000円×1)
雑収入	0	5,548	活動費返金(滋賀県)
利息	5	6	
計	1,029,517	1,122,566	
※個人会員346名 団体会員数18団体(2021.3.31現在)			
支出の部			(単位:円)
科目	予算	決算	備考
印刷代	100,000	88,000	ニュースレター(2回)
送料	150,000	109,404	ニュースレター発送、資料・パンフレット等の発送代
事務用品	10,000	561	封筒、テープ
活動費	90,000	20,000	小集会・学習交流会補助(10,000円×2県)
HP・ML管理費	30,000	39,249	HP更新、ML管理(メールサーバー使用料、ドメイン更新料)
会議費	10,000	0	
イベント運営費	150,000	40,440	フォーラム・春の学習交流会の講師謝礼
事務局・アルバイト謝金	105,000	105,000	会計、会費管理、名簿管理等
日本家庭科教育学会 事務所使用料	20,000	20,000	資料等の保管等
予備費	364,517	0	
小計	1,029,517	422,654	
2020年度繰越金 (残高)	0	699,912	
計	1,029,517	1,122,566	
監査の結果相違ありません			
2021年5月23日			
会計監査 上村 協子			(印)
会計監査 大塚 有里			(印)

【審議事項】

I 2021 年度活動方針（2021.4.1～2022.3.31）

1 生活やものづくりに必要な学びの意義について広く討論をすすめる

- ① 学校や教育課程の在り方を含めて、生活やものづくりの学びについて、意見交換や学習会等を開く。
- ② マスメディアなどを通して活動を広報する。

2 生活やものづくりのための授業・実践活動を充実させ、交流する。

- ① 各県の授業・実践活動を中心とした学習交流会を開催する。
- ② 授業・実践活動交流会は、保護者や地域の人々の協力を得るように努める。
- ③ 授業・実践活動交流会などの小集会には、補助金 1 万円を支給する。

3 啓発・宣伝および会員の拡大をする

- ① 学習指導要領の改訂や新しい教育動向を反映させた新版のビジュアルパンフレット（2019 年 4 月版）等を活用し、生活やものづくりの学びの意義を広くアピールするとともに、勧誘（改訂版）リーフレットを用いて会員を増やす。
- ② HP を充実させ、本ネットワークの意義と活動を知らせていく。

4 会員相互の交流を活発に行う

- ① ニュースレターを年 1・2 回発行する。
- ② メーリングリストや HP を活用し、会員相互の活発な情報交換の場とする。

5 ロビー活動を行う

- ① 世話人会と事務局はロビー活動を推進する。
中央教育審議会委員や関係部署に、家庭科、技術・家庭科の充実に関する要望書を送付する。
- ② 各実行委員・会員は、ロビー活動を行い、状況を把握し、会員に情報を伝達する。

II 2021 年度予算案（2021.4.1～2022.3.31）

生活やものづくりの学びネットワーク 2021年度予算案（2021.4.1～2022.3.31）			
収入			(単位:円)
科目	決算(2020)	予算(2021)	備考
前年度繰越	599,512	699,912	
個人年会費	325,000	300,000	1口1000円×(延べ300人)
団体年会費	140,000	130,000	1口5000円、なるべく2口以上(延べ18団体)
寄付	52,500	20,000	
雑収入	5,548	0	
利息	6	5	
合計	1,122,566	1,149,917	
支出			(単位:円)
科目	決算(2020)	予算(2021)	備考
印刷代	88,000	100,000	ニュース(2回発行)、資料コピー
送料	109,404	120,000	ニュース、資料等の発送代
事務用品	561	5,000	封筒、ラベル
活動費	20,000	45,000	ロビー活動、小集会・学習交流会補助(10,000円×4都道府県)
HP管理費	39,249	40,000	HP更新、ドメイン・メールサーバー使用料
会議費	0	5,000	世話人会・実行委員会の会議費
イベント運営費	40,440	50,000	講演料、会場費等
事務局・アルバイト謝金	105,000	105,000	会計、名簿管理、発送作業等
日本家庭科教育学会事務所使用料	20,000	20,000	資料等の保管
予備費	0	659,917	
次年度繰越金	699,912	0	
合計	1,122,566	1,149,917	

Ⅲ 2021年度 運営体制

～9月

◎世話人代表 ○世話人副代表

世話人 ◎赤塚朋子（日本家庭科教育学会）
○石井克枝（全国家庭科教育協会）
○鈴木賢治（産業教育研究連盟）
知識明子（家庭科教育研究者連盟）
薩本弥生（（一社）日本家政学会）
志村結美（（一社）日本家政学会家政教育部会）
小野由美子（日本消費者教育学会）
仲田郁子（日本家庭科教育学会関東地区会）
重川純子（（一社）日本家政学会生活経営学部会）
酒井宏子（（一社）日本調理科学会）
中山節子（日本家庭科教育学会）

会計監査 上村協子 大塚有里
実行委員 各県、正・副2名を基本とする
事務局 浅井直美 小谷教子 坪内恭子 渡邊彩子

9月～

世話人 ◎堀内かおる（日本家庭科教育学会）
○石井克枝（全国家庭科教育協会）
○鈴木賢治（産業教育研究連盟）
知識明子（家庭科教育研究者連盟）
薩本弥生（（一社）日本家政学会）
鈴木明子（（一社）日本家政学会家政教育部会）
小野由美子（日本消費者教育学会）
藤田智子（日本家庭科教育学会関東地区会）
（（一社）日本家政学会生活経営学部会）
酒井宏子（（一社）日本調理科学会）
川邊淳子（日本家庭科教育学会）

会計監査 上村協子 大塚有里
実行委員 各県、正・副2名を基本とする
事務局 浅井直美 小谷教子 坪内恭子 渡邊彩子



事務局からのお知らせ

1. 年会費の納入をお願いします

2021年度の請求を宛名用紙の裏面に記載しております。9月30日までに納入をお願いいたします。

2. メーリングリスト（ML）にメールアドレスを登録し、情報発信・交換等に活用ください。

2021年2月以降にメーリングリストで配信された内容が以下の表です。全国の研究会等の案内を知ることができます。また、MLにメールアドレスを登録すると自分で配信することができます。添付ファイルもつけられます。不慣れな場合は、事務局にお知らせいただければ事務局から配信いたします。MLを活用して、迅速な情報配信や交流をはかりたいと考えております。多くの皆様の登録・活用をお願いいたします。

投稿日	投稿内容	発信者
2021/6/18	2021年度(一社)日本家政学会被服構成学部会公開夏期セミナーご案内	事務局（会員団体からの依頼）
2021/6/17	家教連夏季研究集会のご案内	会員
2021/5/27	新刊本『生活からはじめる教育』のご案内	会員
2021/4/11	家教連(家庭科教育研究者連盟)からのお知らせです	会員
2021/2/25	2/27(土)開催 実践女子大学 中高「家庭」担当教員向けZoomセミナー	会員
2021/2/24	【再送】「食」に関する学際的研究のオンラインシンポジウムのご案内 (山形大学)	会員
2021/2/22	「食」の学際的研究プロジェクトシンポジウムのご案内(山形大学)	会員
2021/2/21	家教連春の研究会のお知らせ	会員
2021/2/20	ZKK春期研修会(3月27日(土)午後)のお知らせ	会員
2021/2/18	山形研修会(3月20日10時～12時)のご案内	会員
2021/2/10	令和2年度長野県学習交流会のお知らせ	会員
2021/2/9	交流会前に読んでおくと役に立つ書籍を紹介	会員
2021/2/7	彩レース資料室のご紹介	事務局(会員からの依頼)
2021/2/3	春の学習交流会(Zoomによる遠隔開催)のお知らせ	事務局

MLへのメールアドレス登録を希望する方は、事務局まで、メールアドレスをお知らせください。

MLアドレス : seikatsunetmail-ml.seikatsunet.com@ml.seikatsunet.com

3. 新版ビジュアルパンフレット(2019年4月版)を活用ください

新版ビジュアルパンフレットは、新学習指導要領への対応及び資料を更新するなど大幅な改定を行い、内容を充実させました。家庭科、技術・家庭科の学びの重要性を理解していただく資料として、すでに大学の授業や研究会、情宣活動等に活用いただいております。

パンフレットがご入用な方は事務局までご連絡ください。

- ・パンフレット代：無償
- ・送料：会員拡大用に使用する際は無料

大学等の授業で31部以上は着払で有料(ただし30部までは無料)

なお、HPにパンフレットのデータが掲載されています。ご自由に印刷してお使いください。

4. ニュースレター送付先住所の変更について

勤務先の異動、引っ越し等でニュースレター送付先住所が変更になった場合はお早めに事務局までご連絡ください。

なお、送付先は、原則自宅住所でお願いします。

5. 退会届の提出について

退会される場合は「退会届」の提出をお願いしております。ホームページに「退会届」の書式が掲載されておりますので、ご記入の上、メール添付か事務局への郵送でご提出ください。なお、年度ごとの退会となりますので、年会費をお納めの上、退会をお願いします。

事務局メールアドレス : seikatsu_nt@yahoo.co.jp
ホームページ URL : <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>

総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧

年月日	テーマ
2010年9月19日	現代の子どもに必要な学びとは
2011年3月26日	(東日本大震災で中止)
2011年9月25日	これからの農業と私たちの生活
2012年3月31日	原発事故をどう受け止め、学びの場につなげるのか
2012年9月30日	生活やものづくりを大切にす社会へむけて
2013年3月23日	大仏拝観とご講話「東大寺の修二会」
2013年9月29日	人間がこだわってきたもの
2014年3月29日	授業実践から学び、考える
2014年9月28日	ていねいに暮らす…その思想と姿勢
2015年3月21日	綿から糸を紡ぐ～紡績の道具と機械の話・糸紡ぎ体験～
2015年9月27日	生活やものづくりの学びを通してどのような資質・能力を育てるか
2016年3月27日	ICT を活用した授業事例
2016年9月25日	実物、実感、認識—メディア／教育とジェンダーの研究を踏まえて
2017年9月24日	学習指導要領と「家庭」、「技術・家庭」
2018年3月24日	現代っ子不器用の証明
2018年9月23日	新学習指導要領とこれからの高校「家庭」の展開
2019年3月23日	18歳成年消費者を取り巻く取引社会の様相—消費者問題、消費者法の視点から—
2019年9月23日	豊かな感性を育む「生活やものづくり」の学び
2020年3月29日	(新型コロナ感染症拡大防止で中止)
2020年9月27日	「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校
2021年3月27日	コロナ禍における実験・実習の工夫
2021年9月26日	技術科と家庭科の「ものづくりの学び」—子どもたちの学びの保障から考える—(予定)

会員継続のお願い

★会員の皆様のごこれまでのご尽力に深く感謝いたします。長きにわたり本ネットワークを支えていただいた方々のご退職を期にご退会をお考えかと存じますが、コロナ禍で生活やものづくりの学びの場が危ういなか、生活やものづくりの学びの重要性は増すばかりです。引き続き会員として留まり、ネットワークの活動を支援していただくことで、会員たちがどんなに励まされることかわかりません。どうぞ、会員継続によるネットワークのご支援をよろしくお願いいたします。

新規会員のご紹介を

★生活やものづくりに基づいた学びの必要性の声を高めるために、皆様に会員を一人でも増やしていただきたく、お願いいたします。ネットワークを周りの方や研究会のメンバー、教員、学生、保護者、一般の方にご紹介し入会をお勧めくださるようお願いいたします。

入会届やリーフレット・パンフレット等はホームページからダウンロードできます。

世話人代表 赤塚朋子

「公開シンポジウム」のご案内

2021年9月26日（日）にシンポジウムの開催を予定しています。奮ってご参加ください。
なお、続けて12:00-12:30に総会ならびに地区の活動報告を開催します。
会員の皆様、ご出席の程、よろしくお願いいたします。

生活やものづくりの学びネットワーク

シンポジウム 技術科と家庭科の「ものづくりの学び」 —子どもたちの学びの保障から考える—

2021年9月26日（日） 10:00～12:00

Zoomによる遠隔開催 ※参加費無料

コロナ禍における技術科と家庭科の子どもたちの学びの
現状を踏まえ、どのような取り組みができるのか、
少人数学習や調理実習を手がかりに考えます。

コーディネーター

石井 克枝 氏 元 千葉大学／全国家庭科教育協会 副会長

情報提供者

内系 俊男 氏 北海道檜山郡厚沢部町立厚沢部中学校 教諭

浅井 直美 氏 元 東京都公立中学校 教諭

参加を希望される方は9月17日(金)までに事務局のWebサイトに
掲載のフォーム (<https://forms.gle/8tbEMgWPdES9A6Lp8>)
あるいは右記のQRコードからお申し込み下さい。
参加方法は折り返しご案内します。



生活やものづくりの学びネットワーク事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚4-39-11 仲町YTビル3F

日本家庭科教育学会事務局気付

E-mail: seikatsu_nt@yahoo.co.jp

Webサイト: <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>